

誰とどんな風に暮らしたい? 広がる家族観



みんな誰かの声を聴くことで言葉を覚えて、
誰かに向かって話しかけ、話しかけられながら大きくなります。
誰かを気にかけて、誰かに気かけられながら、みんな生きています。
誰かがいなければ言葉も世界もありません。
そして誰かをより好きになって、一緒に生きていたいと思うようになったとき。
それがどんな形であっても、受け入れられる世界であってほしい。
そんなことを考えて、今回のイベントを企画しました。
自分らしい「かぞく」の形を見つけようとしている
4人の女性たちのディスカッションを糸口に、
家族、共同体、文化、国家について考えてみたいと思います。

日時/2013年 **12月1日(日)** 13:30-16:30 (13:00 開場)

▶会場 / リバティおおさか1Fガイダンスルーム

▶参加費 / 無料(ワンドリンク付き)*別途、リバティおおさか入館料500円が必要です。

リバティおおさか(大阪人権博物館)は、大阪市・大阪府の補助金打ち切りによって存続が危ぶまれています。

私たちは、リバティおおさかを応援するとともに、ひとりひとりが人権の大切さを考える契機がもっとあっても良いのではないかと考えました。人権という普遍的な価値が、ともすれば特定の人権問題に取り組む人たちの口からだけ語られ、市民社会にひろく共有される価値になってないのではないかと認識の下で、今回の企画は進められてきました。このイベントを通じて、みんなが世界の当事者として生きることが出来る市民社会のあるべき姿について考えてみたいと思います。

——実行委員会一同

司会



川崎 那恵 (かわさき ともえ)

1983年生まれ。
平日は勤め人。
大阪の被差別部落出身。
結婚差別ってなんで今も続いているんだろう…?という問題意識あり。
「結婚しないの?」「子どもは産んでおいたら?」と言われることも増えました。近頃の悶々とした気持ちをバネにして、司会ががんばります!

パネリスト

新井 智愛 (あらいちえ)

1983年生まれ。
5歳~14歳まで児童養護施設に弟と入所。
14歳の冬、親が見つかり家庭復帰。施設では2歳~18歳までの男女約50人の子どもたちと生活していました。私にとってのもう一つの「家族」。
2010年よりCVV(社会的養護当事者エンパワメントチーム)副代表を務めています。



上原 賢子 (うえはら さとこ)

1978年生まれ。夫とは2010年に婚姻届を出さず、住民票だけ一緒にして「結婚」。私は自分の姓を変えたくなかったし、夫の姓も大切に思えたから。2歳の長男は夫と同じ姓。保育所や病院で保護者のサインを求められた時は「母・上原賢子」。「誰?この人」と思われなかったためのちょっとした工夫です。仕事は新聞記者。

西山千都 (にしやま ちづ)

1981年生まれ。
会社員。
同性のパートナーと今年出産した子どもと暮らしています。
セクシャルマイノリティと女性のためのリソースセンターQWRCスタッフ。
気になるトピックは未婚の母と寡婦控除。



 **リバティおおさか**
大阪人権博物館



〒556-0026 大阪市浪速区浪速西3-6-36
TEL.06-6561-5891(代)
FAX.06-6561-5995
ホームページ <http://www.liberty.or.jp/>

JR環状線「芦原橋駅」下車、南へ約600m
JR環状線・大和路線「今宮駅」下車、西へ約800m
市バス「浪速西3丁目」下車、西へ約200m
南海汐見橋線「木津川駅」下車、東へ約300m

お問い合わせ

Tel▶06-6364-7677(NPO法人ネットワーク医療と人権) E-mail▶liberty.siteru@gmail.com

*一時保育、手話通訳の必要な方は、11/15までに上記お問い合わせ先へご連絡下さい。